ボランティア便り

第2号（年3回発行予定）

《バス研修会　みやき町ボラ連交流会と大刀洗平和記念館》

2026年度の第2回交流会・バス研修会を11月6日金曜日に実施しました。

今年の行き先は近場です。午前中に、隣町のみやき町ボランティア連絡協議会（20団体）との交流会を行い、昼食後には筑前町立大刀洗平和記念館の見学を行いました。心配された天気も、前日の雨天から一変して晴れて、気温も秋らしい一日でした。

参加者は11団体から15名と社協の岡さんに加えて愚石運転手の総勢17名でした。



和気あいわいの車内風景

【午前10時～11時】みやき町ボランティア連絡協議会との交流会

予約参加者は、集合時間9時30分には社協に全員集まり、参加費1500円を支払い、予定通り8時45分過ぎに出発しました。会場まで僅か10分弱。

交流会会場はみやき町のM:MIX向かいの2021年に竣工した市村清記念メディカルコミュニティセンター＝「当センターは、町と民間事業者が、各々の持つ知見や経験を結集させ、公民連携による健康へのアプローチを図り、子どもから高齢者まですべての皆様の心と体の健康づくりを目的とした町有施設です。すべての町民が、自分の生活習慣に対する意識を高め、健康の維持・増進に取り組んでいただくことができる「健幸長寿」の拠点となる施設です。」（みやき町広報）。

交流会会場はその2階大会議室です。

佐藤慶司　みやき町ボラ連会長ほか15名の会員と2名のみやき町社協職員の出迎えを受け、早速交流会を開始しました。1時間の限られた交流時間を有効に活用するため、ワークショップ形式で行われました。両会長の挨拶の後、直ちにグループ討議に入りました。

30分後に各グループによる活発な全体発表が行われ、佐藤代表と飛永副代表によるまとめの言葉を最後に、予定の1時間の交流会を無事終えました。これを契機に、両協議会同士の交流が深まることが、望まれます。









みやき町ボラ連とのワークショップ風景

感想文

・各サークルボランティア交流会の課題は、高齢化にて入会者不足と継承への不安。楽しみながら参加提供できて、仲間作りを考えていこうと思う。
・みやき町のボランティアの人との話は刺激になり、今後の活動の励みになりました。
・今後の、育成についての話合いは、最も重要な課題に触れたと思います。
・交流会では食生活改善推進協議会の男性の活動が印象に残りました。女性が多い中で男性で頑張っておられます。全体的にポジティブな人が多かったように見受けられ、私も楽しんでボランティアをやっていこうと言う気になりました。
・みやき町では現状と課題について、それぞれ話し合いに対策についても話し合いました。高齢化に伴い、会員増や後継者に課題を持たれているところが多く、今後の声かけや活動の中での生かされそうでした。まとめ方発表などお世話になりました。
・もとても活気溢れるみやき町だと感じました。活動なさってる方も30代、40代といらっしゃることを聞きビックリしました。若い方はお仕事をされていると初めから諦めていたのですが、アンテナを張る事も大切だと思いました。これからも近いし、行事など参加できるところがあれば、参加して、いろいろ吸収できたらと思います。ボランティアの方々も久留米も高齢化して、若い世代の方の参加も視野に入れないと、これから先どうなるのかな?と心配になる時もあります。男性の参加も大切だと思います。男性の方は得意仕事などて分野を地域の中で生かしていただければ、活気ある地域になると思います。
・グループに別れての意見交換。やはり参加人数が増えないまたは後継者ができないことの悩み等が多かった。今は共働きが多く仕事されてる年齢も高いのを理由もあったけれど、参加できるきに自由に参加する。考えだったらとの意見が上がった。みやき町のいろんな話も聞けて良かったと思った。いろいろ頑張られている。
・一番印象に残ったのは、「皆さんとても楽しくボランティア活動されています。自分が楽しくないとね。」というのを聞いて、確かにそうねと思いました。
・はじめての参加です。みやき町と久留米市のグループワークは意義あるものになりました。どのグループも課題があるものの、前向きに取り組むとともに、皆様、元気で楽しみながら信念を持ってボランティアに取り組んであるのに感動しました。初めてお会いするボランティアの方とお話できてよかったです。
・まず、今日のバス研修に関わった方々に厚くお礼申し上げます。今後の「バス研修」にも参加したいです。みやき町社協、みやき町ボラ連の皆様参加ありがとうございました。60分と言う限られた短い時間でしたが、貴重な活動の事例を聞かしていただき、大変参考になりました。●楽しんで活動●やれるのみゆっくりする活動する●今やっている活動を深掘り行動する●クヨクヨしないで活動するなど参考になりました。



みやき町ボランティア連絡協議会との集合写真

・総合的に日頃同じボラ連会員なのに、活動する機会が少ないので、とても有意義に過ごせました。特に社協の岡さんにみやき町社協の高津さんとの交渉事に関わって下さって、御礼申し上げます。
・グループに分かれてできて、皆さんとの意見交換がとても良かったです。時間が短いくらいで、それも良かったと思います。日々のボランティアでの悩みはどこでも同じでしたが、皆さん頑張ってあることを感じられて良かったです。
・みやき町は隣町なのに、何て今まで交流が全く無かったのか、不思議でなりません。短時間でしたが、こうして、初めてボラ連同士の交流ができて、とても有意義でした。早速、具体的な連携ができそうなので、これからが楽しみです。特に、この有意義な交流会を企画実施して下さった久留米社協の岡さんとみやき町社協の高津さんに感謝します。来年は熊本地震の被災地を巡るバス研修旅行を希望します。
・時間が短い!もう少しいろいろみやき町の活動を聞いてみたかった。どこのグループも同じような課題を抱えていて、それぞれの課題解決を模索していることがわかり活動の励みとなった。団体の活動時間帯や活動内容などがネックとなって会員増につながらないことも問題に上がったが、難しい課題だと思った。両地域に独自のボラ活動があるのを知って面白かった。
・後継者が居ないのが共通の悩みでしたが、何とかしようとの意気込みを感じた時間でした。



筑前町立大刀洗平和記念館





佐藤みやき町ボラ連会長

【午後1時～2時50分】
筑前町立大刀洗平和記念館

昼食後、平和学習の一環として、豊富な実物展示品により、平和の大切さを語り継ぐ情報発信基地＝大刀洗平和記念館を見学しました。

同館は、西日本における陸軍の航空拠点・大刀洗飛行場が存在した大正8年から昭和20年の敗戦までを航空史とともに照会しています。

まず、大刀洗飛行場の全体像が具体的て分かり易い10数分間のビデオを見ました。その後解説員の方から10分程度の大まかな館内の案内と写真撮影の注意点が述べられました。館内は原則写真・動画撮影禁止ですが、実物2機と同寸大の模型飛行機「震電」の3機のみ写真撮影が許可されています。

膨大な実物の展示品と詳細な解説と頓田の森の悲劇に象徴される過去の事実に圧倒されます。1945年3月27日、太平洋戦争中、大刀洗飛行場を爆撃するためにアメリカ軍のB29爆撃機74機が飛来しました。この空襲の際、誤爆により、飛行場から数キロも離れた頓田の森に逃げ込んだ児童たち31名の尊い命が失われた悲惨な惨劇てす。

予定より早く3時前に見学を終え帰路につき、3時過ぎに社協に無事到着しました。





感想文

・大刀洗平和記念館は生まれ育った近くでこんなに悲しいことが起こったとは…改めて確認できました。涙を浮かべて館内を巡りました。

・大刀洗はやはり戦争はダメだと言う強い思いを持ちました。父が乗っていたであろう赤とんぼを見て感無量でした。

・1度は来てみたいと思っていた場所でした。きちんと整えられている展示で、戦後生まれが多くなるこれからは戦争の恐怖などは、伝わりにくいのではないかと思います。松本零士さんの文章が心に残りました。『人類は発展途上の生き物。だから争う。思想、宗教、信条、民族感情、その4つさえ、お互いに傷つけ合わなければ、争うことはない。お互いを理解する心を持てば、戦争を回避できる。』

・映画を見て、展示物を色々と見る中で、やはり戦争は2度としてはいけない。特攻隊の青年の文章を読んでいると、お国のための文章やはり本心ではないと思う。世界の平和を願います。

・何と言う時代だったんだ。戦争は人の心を失わせる、してはいけない、させてはいけない。絶対に！

・平和の尊さ改めて痛感しました。孫たちと一緒にまた来館したいと思いました。

・若い20歳前後の特攻と言う軍部の方針命令で、約400名が国を守りました。痛ましいの一言です。(これで米国の人を1万数千人殺害したそうです。絶対戦争は繰り返してはならないと改めて決意しました。

・今まで4,5回来館しています。今回ゆっくりと周りいろいろ感じることが多かったです。この年齢になったからではないでしょうか近場での研修もありありかなと思いました。ゆっくりできた1日を過ごしました。

・始めの動画は、大刀洗飛行場の建設からB29による空爆と被害「頓田の森の悲劇」そして特攻へと全体像が理解できてとても見る価値がありました。全体的に、豊富な展示は被害者としての日本がメインで、第二次世界大戦での侵略国として、子どもを含め、ほとんどの国民を戦争推進に洗脳しました。そもそも日本が引き起こし、アジア全体に惨禍が波及したとてつもない人災である要因が、分かりづらい面もありました。戦争のむなしさと反戦の重要性を改めて感じた見学でした。



零戦(現存機)と震電(実物大模型)

・映画は何度見ても泣ける。せっかく近くにあるので、また数年後に訪れて平和ボケしないようにしたいと思った。

・国のため、家族のため、愛する人のために残した最後の手紙は若い命が散っていった戦争の悲惨な記録でした。心と心の平和な楽しい人生を過ごしていきたいと思います。

《おめてとう　顕彰団体の紹介》

11月4日に開催された第54回久留米市社会福祉大会で、久留米市社会福祉協議会会長顕彰、社会福祉協助者の感謝状を、当会加盟の3団体が受けられました。

サロンレクリエーションサポーター　・1班久レよん　・2班はっぴ～い会　・第3班こすもす隊

